

# 昭和47年度 和歌山県文化奨励賞

さむ かわ よし かず  
寒 川 義 一 (陶名 栖豊)

住 所：和歌山県西牟婁郡白浜町

出 身 地：大阪府

生 年：明治32年

## ◎業績及び経歴

大正8年前帝展審査員沢田宗山氏に師事、「洛陽会」幹部として研究活躍され、昭和7年に和歌山県に移り、翌昭和8年高野山に開窯、次いで、昭和12年に高野口町で開窯、その年に紀州藩主の後裔である徳川頼貞氏から廃絶した紀州諸窯復興の意志のもとに「紀州焼葵窯」の名印を贈られた。それ以来紀州独特の新釉薬の創造に傾注、那智黒石の特殊な水成岩であることに着目、これを混入して独創の釉薬の融合に十数年間腐心され、ついに昭和32年に、「那智黒釉」を完成、この新釉薬による茶器が斯界の諸権威から賞讃されている。昭和38年には、この「那智黒釉」をもって製作した「黒釉大壺」が第7回日展に入選。昭和42年には現住所を永住の拠地と定め「登り窯」を築いて、多くの門下生を育てるとともに、紀州陶芸をひろめ、伝統工芸技術の保存に貢献されている。昭和45年には、伝統陶芸技術の研究と保存に貢献した功績により文化庁長官より、「文化財功労者」として表彰されている。